

令和5年度に係る自己点検・評価の報告書

令和6年8月19日
大学経営戦略会議

1. はじめに

本件は、岡山大学内部質保証規則（令和3年岡大規則第19号）に基づき実施した図書館に関する自己点検・評価の結果を報告するものである。

2. 実施体制・手順

図書館では、教学担当理事の下、岡山大学自己点検・評価の実施要領に定める図書館に関する二つの観点について、令和5年度を実施対象とし、自己点検・評価を実施した。

具体的には、令和6年度第1回附属図書館運営委員会（令和6年6月12日）にて、観点①「図書館において、教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備し、有効に活用されているか」及び観点②「学術情報資料の活用について適切な支援が行われているか」から、令和5年度の実施状況や調査結果を元に、適切な状態か、改善を要する事項等がないかを点検した。

3. 総括

自己点検・評価の結果、観点①は「注意が必要」、観点②は「適切である」となった。

「注意が必要」としたのは、図書費の減少が続くなか、令和5年度の図書及び電子書籍の利用件数が減少傾向にあるためである。改善策として、より利用者ニーズに即した予算配分、資料選定及び広報活動の強化があげられた。

優れた成果としては、全学方針である「第4期中期目標・計画期間中の電子ジャーナル等整備方針」に基づく電子ジャーナル等の安定的整備による利用件数増、転換契約によるオープンアクセス論文出版に係る費用節減効果があげられた。

4. 前年度の点検・評価の結果、確認された改善を要する事項（前年度の点検・評価実施時点で対応済のものを除く。）の対応状況

該当なし。

5. 点検・評価の結果、確認された改善を要する事項のうち主要なもの

該当なし。

6. 点検・評価の結果、確認された全学での検討が必要な課題のうち主要なもの

学生1人あたりの図書費（電子書籍含む）が、国立大学平均値の約半分にとどまり（R4）、利用面でも、減少傾向がみられるため、注視が必要である。毎年の部局予算削減にくわえ、光熱費の高騰による影響が大きいなか、令和5年度は年度途中に、学長理事裁量経費を要求することで、補填した。安定的な予算確保は、全学的な検討が必要な課題と考える。

7. 点検・評価の結果、「適切であるが注意が必要」とした事項に対し、維持・向上させるための活動計画のうち主要なもの

限られた予算の有効活用のため、利用者ニーズへのよりきめ細かい対応が求められる。利用統計分析を生かした予算配分、資料選定を行うと同時に、広報活動の強化を行う。

8. 点検・評価の結果、確認された優れた成果が確認できる取組のうち主要なもの

全学方針に基づき、選定した電子ジャーナル等は、利用が令和3年度比の約1.1倍になるなど、利用者ニーズに即した整備ができています。令和5年度は、他大学との比較や、転換契約による費用節減効果等の観点から、現状分析を行い、大学経営戦略会議にて、第4期期間中のタイトルの維持を決定した。特に、転換契約による費用節減効果は大きく、令和5年は77報のオープンアクセス論文を出版することで、APC相当約3,950万円のコストメリットが見込まれた。

以上